

平成26年度

宿毛市政功労者・善行者表彰

11月6日、市政功労者・善行者表彰式が行われました。沖本市長が受章者の功績をたたえ、表彰状と記念品を贈呈しました。

今年度の市政功労者・市政善行者は次の方々です。

市政功労者

木村 和美氏（西町）

多年にわたり、宿毛市母子保健推進員として市民の母子保健の向上に多大な貢献をされました。

市政善行者

福井 奉吏氏・福井みどり氏（小筑紫町内外ノ浦）

本年8月24日に内外ノ浦漁港で発生した、高齢者の海への転落事故において、自己の危険を顧みず、人命救助活動にあたられました。

全国共済農業協同組合連合会高知県本部様（高知市北御座）

幡多西部消防組合宿毛消防署において、各種災害救急活動に活用するため、高規格資機材の寄附をされ、当施設の円滑な運営に多大な貢献をされました。

岡添 健介氏（神奈川県座間市）

宿毛市に対し、歴史資料を寄附し、本市の公益に多大な貢献をされました。

震災復興支援グループきぼう代表 浅見 健一氏

（宮城県仙台市）
南海トラフ巨大地震で大きな津波被害が想定されている市内の保育園に対し、救命胴衣の寄附をされ、本市における地域防災力の向上に多大な貢献をされました。



【問い合わせ先】 企画課秘書係 ☎63-11118

防災コーナー

【問い合わせ先】 危機管理課 ☎63-0951

すくも
自主防災会だより 第13号

地域防災会づくりに寄せ

母島地区自主防災会について

（平成24年4月1日設立）

今まで、当地区では、震災や台風、集中豪雨などで大きな災害の発生がなく、地域も小さく地域全体が皆親類、またいなもので、普段の近所付き合いから、「あそこの家には一人暮らしの高齢者がいて、この家には体の不自由な高齢者がいる」といった生活状況が把握できるため、防災訓練に関心が薄かったように思われます。そうした中、東日本大震災や台風12号による紀伊半島の集中豪雨など、想定外の被害が発生したことで、防災訓練の必要性が高まり、関係機関（警察署、海上保安署、消防署、沖の島消防団、行政、地区役員）の力添えをいただき、当地区でも大規模な防災訓練が実施されました。

当日は、母島地区が孤立したという想定のもと、生活物資、けが人などの搬送訓練などが行われ、地区住民も次第に自主防災への関心が高まり

組織の立ち上げとなりました。

●集中豪雨などによる河川の氾濫。

○自主防災活動について

「県下「斉避難訓練」で、大津波警報のサイレンを合図に避難場所（沖の島開発総合センター）への避難訓練を実施した。

●参加人員 45人

（地区の66%うち65歳以上57%）

●避難に要した時間 1分～13分

母島消防分団が、各家庭に避難するよう声掛けと安否確認をした。

(1) AEDを使った蘇生訓練、けが人などの応急手当や搬送訓練

(2) 初期消火活動と体験学習

(3) 健康を守る会、地区の女性の協力で避難食の炊き出し訓練、防災用具の点検・整理

(4) 消防分団による発電機、チェンソーの使用方法的指導
（※特に女性に対して行った。発電機については、かけ方の順序を表示した。）

○防災に対する地域の特徴の把握
●平坦な場所がなく、ほとんど階段であり、崖の上に家屋を建てている。

●地震による被害は、津波より崖崩れや家屋の倒壊。

●火災が発生した場合、消火活動が困難。

○今後の課題

自然災害は、防止することは困難ですが、被害に遭わないようにすることは可能です。すべての地域での消防機関などの避難誘導や人命救助は困難であり、「自分の命は自分で守る」ことが大事です。

○今後の訓練のあり方

●訓練の実施時期
暑い時期（7、8月）、寒い時期（12、1月）に実施するよう工夫する。

●訓練の時間
早朝、夜間などに実施するよう工夫する。

●平成24年～26年の3年間で一度も訓練に参加されていない方に、いかに訓練に参加してもらおうか検討が必要である。

自然災害が発生しても当地区では、被害者は1人も出さない強い気持ちを持ち、情報の周知、災害に対する関心を高め「自分の命は自分で守る」を基本に自主防災会の充実した活動が必要であります。

母島地区自主防災会

会長 宮本恒水